

評価領域	教育課程
------	------

重点目標 地域と共に育ち、地域に感謝される学校づくりの推進

現 状

- ・恵まれた自然環境と開校当初からの理解ある地域との関係を活かした教育課程を編成・実施している。
- ・コロナ禍における学習活動に対する大きな制限が緩和されたことにより、地域を題材とした学習に、より積極的に取り組んでいる。
- ・地域交流室、食品加工室、寄宿舍の自立生活体験室等、新校舎の機能を最大限に活かした教育活動に取り組んでいる。

具体的な目標 地域を題材とした学習、学校と地域が共に育つ活動、地域から感謝される体験による児童生徒の「本物の力」の育成と時代に求められる児童生徒の資質・能力を育成するための授業改善

目標達成のための方策

- 1 児童生徒の生活年齢や発達段階、特性に応じた、地域を題材とする学習活動を計画・実施する。
- 2 全校研究を通して「本物の力」についての捉えを共通理解するとともに、児童生徒が楽しみながら、時代に求められる資質・能力を育成するための授業を行い、公開研究会で助言をいただき、改善に活かす。

具体的な取組状況

- 1 地域の方々の協力をいただきながら、児童生徒が生活単元学習の学習の成果を発表する場として計画していた「達子森の夏祭り」は、大雨のため実施できなかったが、1週間後に花火の打ち上げを実施し、地域の方々と児童生徒が共に楽しんだ。また、高等部を中心として、本場大館きりたんぼ祭りや比内芸文祭、比内とりの市についても、生徒の学習の成果を発表する場として、またボランティアとしても参加した。
新規に行った扇田市日への出店を含む作業学習製品の地域での販売活動、地域の店舗への委託販売、生徒が講師となって行ったものづくり講座等、作業学習を通して地域の方々の交流ができた。
- 2 小学部では児童の興味・関心、地域への校外学習、地域の方との交流を基に各学年でテーマを決めて、中学部では地域の求めに応じた幼児に対する木のおもちゃの贈呈、SDGsをテーマにした単元を取り扱い、高等部では地域の施設からの依頼や地域のイベントへの積極的な参加に向けて、生活単元学習の授業づくりを行った。各学部1回の全校研究会、12月の公開研究会に外部から助言者を招いて助言をいただき、授業改善に活かした。

P

D

達成状況	<p>1 コロナによる活動制限がなくなったことにより、地域を題材とする学習に積極的に取り組んだ。小学部では地域の店舗に出掛けたり、地域の方を招いたりして児童が楽しい、うれしいと感じながら本物にふれる体験を大切にしながら単元づくり、授業づくりに取り組み、中学部・高等部でも地域に制作物を送ったり、地域のイベントに参画したりする等、本物のお客さんを相手にし、喜んでもらえるなどの取組を軸に単元を展開した。それらの経験を経て、授業で育成を目指した資質・能力が育成され、身に付けた力を授業以外の場面でも発揮する姿が散見されるようになってきた。</p> <p>2 授業で、児童生徒に発達段階に応じた「振り返りの視点」を示し、授業改善を繰り返したことで、学びの焦点化がなされ、見通しをもち主体的に学ぶ姿が引き出された。また、言語化を意識した取組が推進され、児童生徒が考えたことや感じたことをより言葉で表出できるようになった。</p>	D
-------------	--	----------

自己評価	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">(評価)</td> <td style="text-align: center;">(根拠)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価において、「地域と共に育ち、地域に感謝される学校づくりができたか」の設問に対し、98.7%の職員が「よかった」「まずまずよかった」と回答した。また、95.8%の保護者が「はい」「どちらかといえばはい」と回答した。 </td> </tr> </table>	(評価)	(根拠)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価において、「地域と共に育ち、地域に感謝される学校づくりができたか」の設問に対し、98.7%の職員が「よかった」「まずまずよかった」と回答した。また、95.8%の保護者が「はい」「どちらかといえばはい」と回答した。 	C
(評価)	(根拠)					
A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価において、「地域と共に育ち、地域に感謝される学校づくりができたか」の設問に対し、98.7%の職員が「よかった」「まずまずよかった」と回答した。また、95.8%の保護者が「はい」「どちらかといえばはい」と回答した。 					

↑
評価基準
↓

A：具体的な活動がなされ目標を達成できた
B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">(評価)</td> <td style="text-align: center;">(意見)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・県北地域の中心校としての積み重ねと工夫が感じられる編成と実践である。 ・地域行事への参加やそれに伴う地域住民との交流の機会が多くなり、子ども達の世界は広がった。 ・地域は大きな教室と以前から掲げてきて、それぞれの思いを教育課程で工夫した指導を行い、生徒自身の自覚が育っていると感じている。 </td> </tr> </table>	(評価)	(意見)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・県北地域の中心校としての積み重ねと工夫が感じられる編成と実践である。 ・地域行事への参加やそれに伴う地域住民との交流の機会が多くなり、子ども達の世界は広がった。 ・地域は大きな教室と以前から掲げてきて、それぞれの思いを教育課程で工夫した指導を行い、生徒自身の自覚が育っていると感じている。 	C
(評価)	(意見)					
A	<ul style="list-style-type: none"> ・県北地域の中心校としての積み重ねと工夫が感じられる編成と実践である。 ・地域行事への参加やそれに伴う地域住民との交流の機会が多くなり、子ども達の世界は広がった。 ・地域は大きな教室と以前から掲げてきて、それぞれの思いを教育課程で工夫した指導を行い、生徒自身の自覚が育っていると感じている。 					

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が生活単元学習を通して身に付けた「本物の力」が他の教科や日常生活全体を通して、更に地域に出掛けたときにも発揮できるような意図的な仕掛けを作っていくこと、また、児童生徒が「できるようになりたい」「これを頑張りたい」と目的をもって取り組むことができるような授業づくりに取り組んでいく。 ・「地域から感謝される」には「学校が地域社会に何をもたらすか」を考えていく必要がある。地域が学校に何を求めているのかを把握していくとともに、私たち学校も地域社会に何をもたらすことができるかを考えながら学習活動を計画・実践していく。 	A
------------------------------	--	----------